

相模ダムの恵み - 相模ダムの果たす役割 -

水の供給

ダム湖の役割の一つに、水道や工場へ用水を供給する水を貯めるということがあります。川は季節によって流れる水の量が大きく変わります。降水量の多い時期には水は豊富ですが、反対に降水量の少ない時期には利用できる水も乏しくなります。

そこで、大雨で川の水量が多いときにはダム湖に水を貯め、反対に川の水が少なくなったときにはダム湖に貯めておいた水を川に流すことで、安定して利用できる水を生み出すことができます。

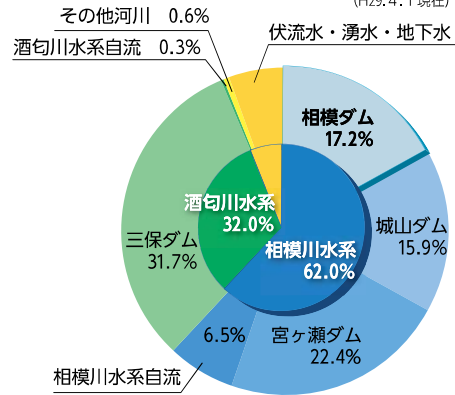
神奈川の水利用は、大きくは相模川水系の水と酒匂川水系の水に分けられます。この2つの水系により県内の水需要の9割以上がまかなわれています。

この相模川水系には相模ダム（相模湖）、城山ダム（津久井湖）及び宮ヶ瀬ダム（国）（宮ヶ瀬湖）が、また、酒匂川水系には三保ダム（丹沢湖）が築造されており、4つのダム湖は「かながわの水がめ」として大きな役割を果たしています。

相模湖は、神奈川県内の上水道用水の水源のうち約17%を担っております。

神奈川県内の上水道の水源別構成比

(H29.4.1現在)



憩いの場

相模湖のほとりには、相模湖公園があり、たくさんの方が訪れています。現在は、昭和63年の相模発電所の改造工事での役割を終えた水車や発電機などが展示され、タービンの森広場として親しまれています。



かながわの水がめ 概要図



- 凡例
- 相模川水系の水
 - 酒匂川水系の水
 - 相模川+酒匂川水系の水
 - その他の河川の水
 - 地下水、伏流水、湧水等
- ※河川、地下水などを併用している場合は、多い方としています。
- 各ダム、取水せきにて雨が集まってくる範囲
 - 県営水道の給水区域

(H28.4.1現在)



相模ダムに貯めておいた水は、沼本ダムで取水された後、津久井導水路（県）を経由して津久井分水池で分水され、県内の水道事業者（神奈川県、横浜市、川崎市）に供給されています。